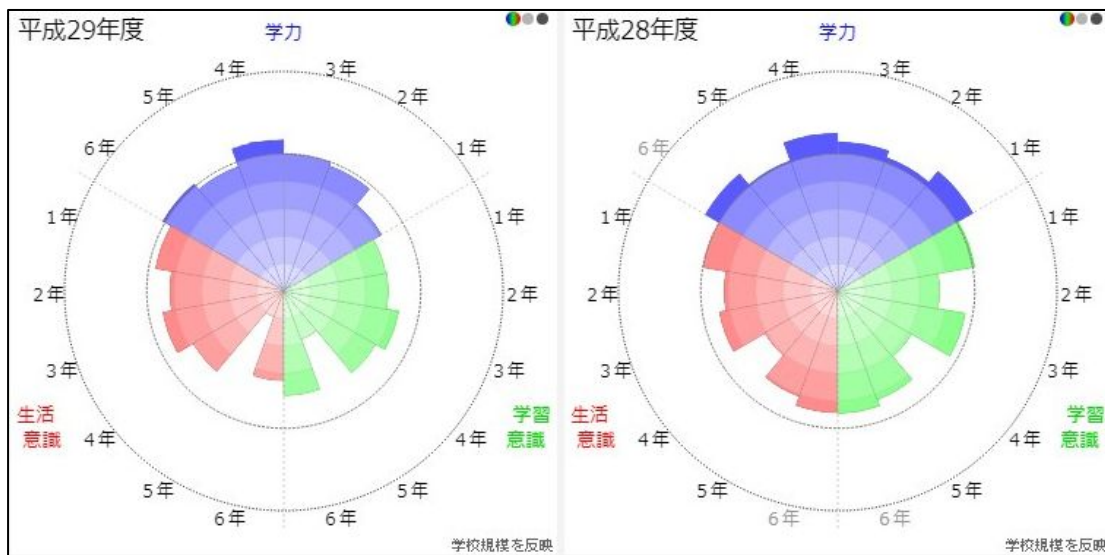


横浜市立豊岡小学校

平成30年度 学力向上アクションプラン

1 横浜市学力・学習状況調査の結果から

(1) 学力の概要



学力面では、29年度1年生を除き横浜市の平均的なレベルであるといえるが、28年度から29年度にかけて多くの学年で学力低下傾向にある。生活意識、学習意識に関しては、学年によるばらつきが見られ、両意識ともに29年度には全学年で市平均を下回る結果となっている。また、上昇している28年度2年→29年度3年以外の学年は、低下傾向を示している。

(2) 教科学習の状況

※ 平成29年度の本校の横浜市学力・学習状況調査の結果（教科別標準化得点）

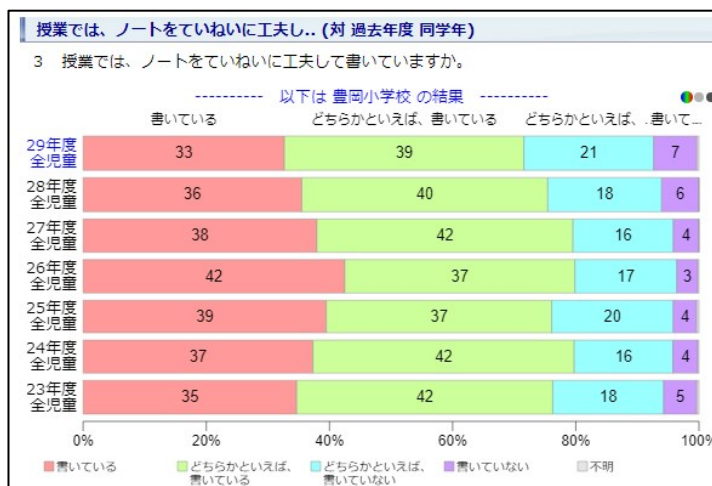
	1年	2年	3年	4年	5年	6年
国語	97.0	99.9	101.1	100.9	98.0	100.2
社会			99.9	101.2	100.1	99.6
算数	98.5	99.4	99.9	100.9	100.8	101.2
理科			98.9	102.0	99.5	99.8

※標準化得点…横浜市の平均を100として、本校の得点を見たもの

- 国語：「書く」「読む」は概ね市平均だが、「知識・理解・技能」「話す・聞く」が低い傾向にある。
- 社会：3年生「知識・理解」、5年生「思考・判断・表現」が他の観点よりやや低い傾向にある。
- 算数：低学年の「技能」が若干低い傾向にあるが、他は市平均レベルである。
- 理科：学年とともに「技能」の低下が見られるが、「知識・理解」「思考・表現」は逆に高くなっている。

(3) 経年変化の状況

全体として見ると市平均レベルを維持しているが、ここ数年、学年によるばらつきが見られるようになり、学力・学習意識・生活意識ともに低下傾向にある。特に「ノートをしていねいに工夫して書く」「自分の考えをを発表する」「授業がわかりやすい」の項目が少しずつ低下している。また、「あいさつを自分からする」の項目に関しては、昨年度より若干向上はしたが、6年前に6割近くあった「している」の回答が4割程度まで低下している。



2 平成30年度の学力向上にかかわる研究テーマ

平成30年度 研究テーマ

一人ひとりの生き方を切り拓く学びの創造
～自ら問いをもち、自分の考えを進んで表現する子の育成～

(1) 学校組織としての共通取組

○算数科を核として

算数科を中心としながら、授業の中で子どもたち自らが問いやこだわりをもって、問題を追究していく子どもを育てる。そのために、子どもたちが自分の思いや考えを進んで伝え合い、表現できるような指導内容や活動を工夫する。

○基本的な学習スキルの向上に向けて

毎週水曜日の朝の時間1モジュールを全校で読書タイム、毎週木曜日の朝の時間1モジュールを全校で計算スキルタイムとして取り組む。

○学校と家庭・地域の連携を通して

家庭と連携して家庭学習の習慣化を図る。また、「まち憩」を実施し、その結果を効果的に活用することによって、まちとともにあゆむ学校づくりの具現化をはかる。

(2) 学年・教科等としての取組

算数科を核とした自分の考えを進んで表現する子の育成

○1・2学年

子どもたちが夢中になって考えていく中で生まれる自分なりの考えを、楽しみながら伝えたり聞いたりしていく中で、学ぶ楽しさを味わえる子どもを育てる。

○3・4学年

子どもたちが問いをもって考えていけるような問題との出会いを大切にしていく。友だちの考えとの違いやよさなどから考えていく問題解決的な学習を意識し、自分なりの考えをもち、いろいろな方法でわかりやすくその考えを表現したり、聞き合ったりすることを楽しめる子どもを育てる。

○5・6学年

子どもたちが問いをもって考えていけるような問題との出会いを大切にしていく。自他の考えを出し合う中で生まれた疑問を大切に問題解決的な学習を意識し、根拠をもって自分なりの考えを進んで表現したり、聞き合って互いの良さを見つけたりする子を育てる。

○個別支援学級

生活の中の数学的なものとのかわりを大切にしていくことで、子どもたちの必要感を高め、自分の思いを伝えたいという意欲をもてるようにする。